

(講座) 環境薬科学

(研究室) 衛生化学

(氏名) 小野正博

(職名) 助手

【研究テーマ】

1. アルツハイマー病脳における老人斑アミロイドのインビボ画像化に関する研究
2. 生体代謝機能を利用した放射性蛋白質・ペプチド性医薬品の分子設計に関する研究
3. 骨疾患の診断を目的とした骨代謝機能測定剤の開発に関する研究

【論文発表】

A 欧文

(A-a) 原著論文

1. M. Ono, H. Kawashima, A. Nonaka, T. Kawai, M. Haratake, H. Mori, MP. Kung, H. Kung, H. Saji, M. Nakayama: Novel benzofuran derivatives for PET imaging of β -amyloid plaques in Alzheimer's disease brains. *J. Med. Chem.*, **49**, 2725-2730 (2006). (IF: 4.93)
2. K. Ogawa, T. Mukai, Y. Inoue, M. Ono, H. Saji: Development of a novel ^{99m}Tc -chelate-conjugated bisphosphonate with high affinity for bone as a bone scintigraphic agent. *J. Nucl. Med.*, **47**, 2042-2047 (2006). (IF: 4.68)
3. M. Haratake, S. Hidaka, M. Ono, M. Nakayama: An ionic polymer bead-supported lipid system. *J. Colloid. Interf. Sci.*, **299**, 924-927 (2006). (IF: 2.02)
4. M. Haratake, K. Yasumoto, M. Ono, M. Akashi, M. Nakayama: Synthesis of hydrophilic macroporous chelating polymers and their versatility in the preconcentration of metals in seawater samples. *Anal. Chim. Acta*, **561**, 183-190 (2006) (IF: 2.76)

B 邦文

(B-a) 原著論文

1. 小野 正博: アルツハイマー病の早期診断を目的とする老人斑アミロイド画像化薬剤の開発、*インナービジョン*, **21**, 42 (2006).

【学会発表】

A 国際学会

(A-b) 一般講演

1. M. Ono, Y. Maya, M. Haratake, M. Nakayama: Synthesis and characterization of styrylchromone derivatives as amyloid imaging agents. Society of Nuclear Medicine 53rd Annual Meeting June 3-8, 2006 (San Diego, CA).
2. M. Haratake, K. Fujimoto, R. Hirakawa, M. Ono, M. Nakayama: Selenium export from red blood cells in an oxygen-linked fashion, 8th International Symposium on Selenium in Biology and Medicine, July 25-30, 2006 (Madison, WI).
3. M. Ono, A. Nonaka, K. Okada, M. Haratake, M. Nakayama: Synthesis and evaluation of ^{99m}Tc labeled benzofuran derivatives for in vivo imaging of amyloid plaques

in the brain, 9th Congress of World Federation of Nuclear Medicine and Biology, October 22-27, 2006 (Seoul, Korea).

B 国内学会

(B-b) 一般講演

1. 真矢 啓史、小野 正博、原武 衛、中山 守雄:アルツハイマー病の診断を目的とする新規アミロイドイメージングプローブの開発—スチリルクロモン誘導体の合成とその評価—、第126年会日本薬学会、2006年3月(仙台)
2. 松元 真哉、原武 衛、小野 正博、中山 守雄:セレン含有プルラン誘導体の合成とそのGPx様活性の評価、第126年会日本薬学会、2006年3月(仙台)
3. 宮内 みほ子、原武 衛、小野 正博、中山 守雄:ペニシラミンセレノトリスルフィドと血漿成分との反応性の検討、第126年会日本薬学会、2006年3月(仙台)
4. 河嶋 秀和、小野 正博、河合 知喜、森 啓、Hank F. Kung、北野 治廣、中山 守雄、佐治 英郎:¹¹C標識ベンゾフラン誘導体のPET用老人斑イメージングプローブとしての有効性に関する検討、第126年会日本薬学会、2006年3月(仙台)
5. 小野 正博、吉田 直子、原武 衛、森 啓、中山 守雄:脳内アミロイドβ蛋白のインビボ画像化を目的とした放射性ヨウ素標識フラボン誘導体の開発、第126年会日本薬学会、2006年3月(仙台)
6. 松元 真哉、原武 衛、小野 正博、中山 守雄:水酸化多糖に導入したセレノシスチン誘導体の抗酸化活性、フォーラム2006:衛生薬学・環境トキシコロジー、2006年10月(東京)
7. 松元 真哉、原武 衛、小野 正博、中山 守雄:セレン含有プルラン誘導体の微粒子形成挙動と抗酸化活性、第23回日本薬学会九州支部大会、2006年12月(熊本)

【特許】

1. 小野 正博、アミロイド関連疾患診断用組成物、特願2006-328131、平成18年12月
2. 中山 守雄、原武 衛、小野 正博、森 啓、アミロイド関連疾患診断用組成物、特願2006-174970、平成18年6月
3. 中山 守雄、原武 衛、小野 正博、森 啓、アミロイド関連疾患診断用組成物、特願2006-174933、平成18年6月
4. 中山 守雄、原武 衛、小野 正博、森 啓、アミロイド関連疾患診断用組成物、特願2006-520584、平成18年6月
5. 中山 守雄、原武 衛、小野 正博、森 啓、アミロイド関連疾患診断用組成物、特願2006-144024、平成18年5月

【研究費取得状況】

1. アルツハイマー病の早期診断を可能にする老人斑アミロイドの分子イメージング技術の開発;新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)/産業技術研究助成事業
2. 脳内アミロイドβ蛋白の検出を目的とした新規分子イメージングプローブの開発;文部科学省科学研究費若手研究(B)

【過去の研究業績総計】

原著論文 (欧文)	32 編	(邦文)	2 編
総説 (欧文)	0 編	(邦文)	1 編
特許	6 件		